

# 【災害に備えて】

大徳地区防災士会 北島 外喜雄

いつ、どこで、起こるかわからない災害。  
 尊い命を救い、被害を少しでも小さくするために大きな力となるのは自分の身は自分で守り、家族や地域で助け合うこと。  
 そのために、今、家庭で出来ること、しなければならぬことを見てください。  
 大切なのは、ふだんからの心がけなのです。

## 【「家族防災会議」を行おう】

いざという時に備え、災害時の対応や連絡方法など「防災時のわが家のルール」を家族全員で話あって確認しておくことが大切です。ただし、一度話し合い、確認したからと言って、安心してはいけません。家族の状況は変化しますので、年に一度は「家族防災会議」行いましょう。  
 今回の講習は「家族防災会議」を中心とした内容です。

## 【「家族防災会議」で話し合っておくべきこと】

- ①ハザードマップや被害想定から、自分の住む地域の災害リスクを確認。  
**大徳地区水害ハザードマップです。**



詳しくは下記URLから金沢市(大徳地区)水害ハザードマップをご覧ください。  
<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/data/open/cnt/3/27156/1/daitoku-s.pdf?20200323133243>

- ②大地震に備えたわが家の安全確認(自宅内の危険箇所・安全な場所は?)  
**家具類の転倒・落下・移動防止対策 など**
- ③避難場所や避難所への経路を、昼間と夜間、それぞれ実際に歩いてみる。  
**大徳地区の拠点及び指定の指定避難所を確認しましょう。**  
 (拠点避難所) 大徳小学校、木曳野小学校  
 (指定避難場所(屋内)) 大徳中学校、市立工業高校、金沢西高校、  
 城西体育館、金沢海みらい図書館、大徳公民館

その他に大徳地区としての協定避難場所があります。

災害時ここも行けるよ!	
【協定施設】	
(株) 山崎屋	金沢ゆめのゆ
社会福祉法人 陽風園	向陽苑木曳野
社会福祉法人 美羽福祉会	ケアハウスゆりの里
(株) コロナワールド	金沢コロナワールド



- ④家庭内の備蓄品(期限切れの食品や薬がないかなど)と保管場所の確認。  
 災害により停電・断水などライフラインが途絶された場合、救助までに時間がかかる可能性があります。日頃から、非常用備蓄に心掛けましょう。  
 <非常備蓄品の例>

飲料水	一人一日3ℓを目安に用意
燃料	卓上コンロ、携帯コンロ、固形燃料 など
非常食品	乾パン、缶詰やレトルト食品、栄養補助食品 など
その他生活用品	生活用品(風呂や洗濯機に備蓄しておくなど)ポリタンク、毛布、寝袋、洗面用具、トイレトーパー、なべ、やかん、バケツ、使い捨てカイロ、ろうそく、ロープ・スコップなどの工具、ドライシャンプー新聞紙、ビニールシート、布製ガムテープ、キッチン用ラップ、ペットフード(ペットがいる場合) など



- ⑤非常持ち出し品の準備(季節によって中身が違ってくことに留意)。  
 非常時に持ち出すものをあらかじめ準備しておきましょう。家庭の実情に合わせて持出品を決めましょう。重くなりすぎない様、最小限のものにまとめましょう。

〈非常持ち出し品の例〉

貴重品	現金、カード類、預貯金通帳、権利証書、免許証、保険証、印章 など
非常食品	乾パン、缶詰など火を通さずに食べられるもの
飲料水	持ち運べるようペットボトルに入ったもの
応急医療品	常用薬、バンソウコウ、消毒薬、包帯、マスク など
懐中電灯	一人一個、予備の電池も
携帯ラジオ	予備の電池も
衣類・タオル	下着、上着、靴下などの衣類、軍手、タオル、雨具 など
その他	ティッシュペーパー、ビニール袋、石鹸、生理用品、紙おむつ など



- ⑥消火用品、防災機材などの準備。  
 自宅で備える場合、自分(自分たち)で何が必要か考えて備えなければ本当に約立つものは揃わない。防災用品は、普段から使えるもの、普段から使うように心掛けることです。  
 (例) 家庭用消火器、パール、ジャッキ、のこぎりなどの大工道具 など
- ⑦災害時の対応確認。高齢者がいる家庭ではその避難方法、ガス栓・ブレーカーの措置など。  
 風水害(台風、大雨など)の場合は情報収集して「危険」や「異変」を感じたら、避難勧告などの避難情報を待たず、自らの判断で早めの率先避難することを心掛けましょう。
- ⑧家族の連絡方法の確認。  
 災害用伝言ダイヤル(171)や災害用伝言板などの安否確認ツール、ツイッター、SNSなどの活用。被災地から離れた親戚などの家の中継拠点にする方法などがあります。  
 日常的に家族で確認しあいましょう。

### 災害被害を少なくするのは「自助」と「共助」

大地震や豪雨など自然現象は人の力でくい止められなくても、災害による被害は自分たちの日頃の努力によって減らすことができます。

行政による「公助」はいうまでもありませんが、自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合う「共助」こそが、災害による被害を少なくするための大きな力となります。ただし、身の回りの人を助けるには、まず自分が無事でなければならず、「自助」あつての「共助」です。

ふだん、できていないことを災害時に行うことはできません。平時から、「自分でできること」「家族でできること」「ご近所と力を合わせてできること」などについて考え、災害に備えておくことが大切なのです。

## 「備えあれば憂いなし」!!!

最後になりますが、災害時に困るのは、食糧や安全の確保と合わせてトイレのこと。

そんな時に役立つのが、簡易トイレ。

簡易トイレの作り方の一例として参考にしてください。

既存トイレを利用した方法と、持ち運びができる簡易トイレの2パターンをご紹介します。

(HoiClueホームページから引用)

### \*材料

#### 【既存トイレを利用する場合】

- ・ゴミ袋...2枚
- ・新聞紙

#### 【持ち運べる簡易トイレ】

- ・大型バケツ (または段ボール箱)
- ・新聞紙
- ・ゴミ袋...2枚

### \*作り方

#### 【既存トイレを利用する場合】

- 1、便座を上げ、ポリ袋を覆いかぶせる。
- 2、2枚目のポリ袋を便座の上からかぶせ、細かく砕いた新聞紙を重ねる。

#### 【持ち運べる簡易トイレ】

- 1、大型バケツ、もしくは段ボール箱の内側にポリ袋を二重にかぶせる。
- 2、1に細かく砕いた新聞紙を入れる。

使用後は、ポリ袋を指定の場所に捨てる。

### \*ポイント

- ・ダンボールは、ガムテープ補強し、ふたをすべて内側に折り込むと、丈夫で壊れにくい。
- ・ペットシートや猫砂がある場合は、新聞紙の代わりに使用すると、水分を固めてくれるので便利。

以上です。